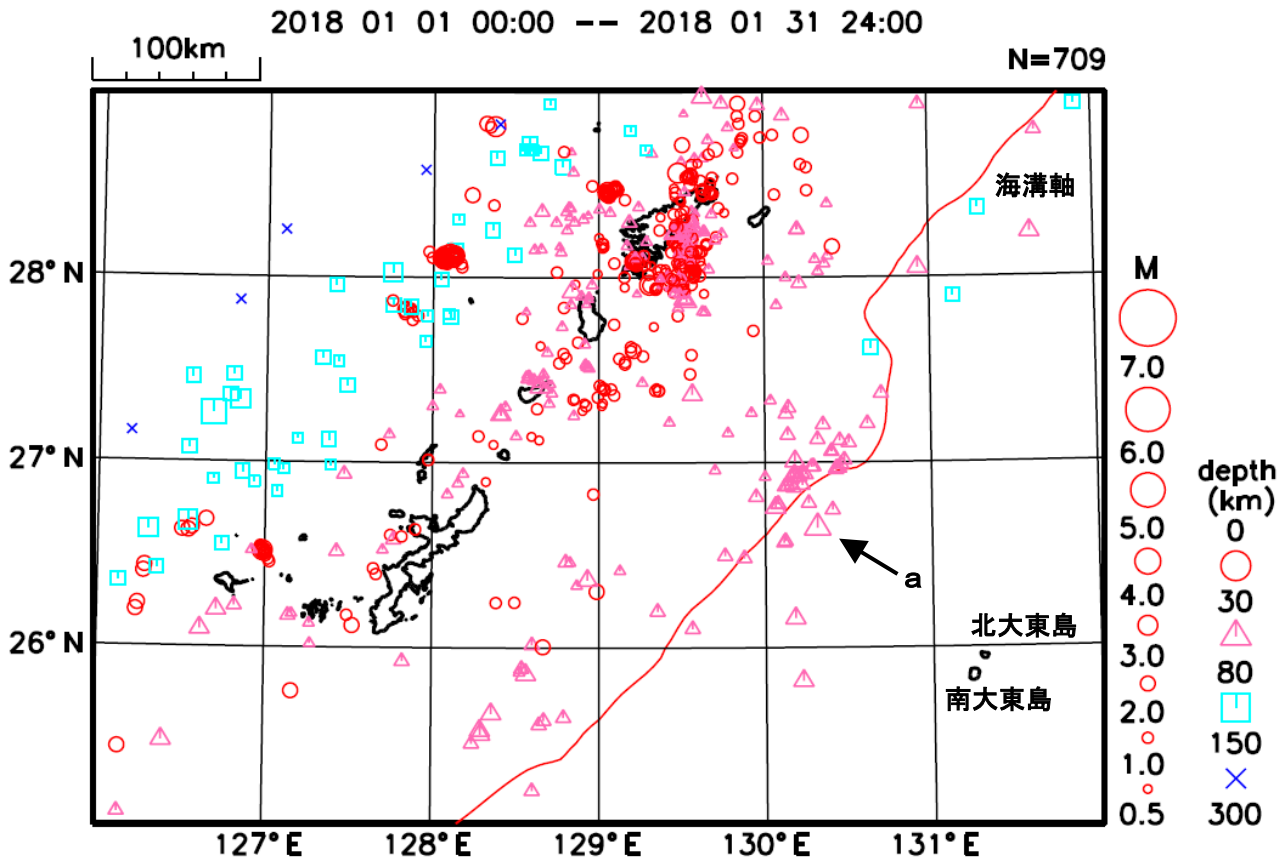


地震活動図

2018年（平成30年）1月

南大東島地方気象台

震央分布図



震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

[概況]

今期間に、大東島地方及び沖縄本島地方とその周辺（図の範囲内）で観測した地震は709回（2017年12月623回）で、このうちM4.0以上の地震は2回（2017年12月0回）でした。なお、大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震はありませんでした（大東島地方2017年12月0回、沖縄本島地方2017年12月2回）。

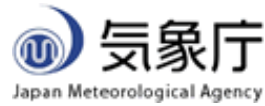
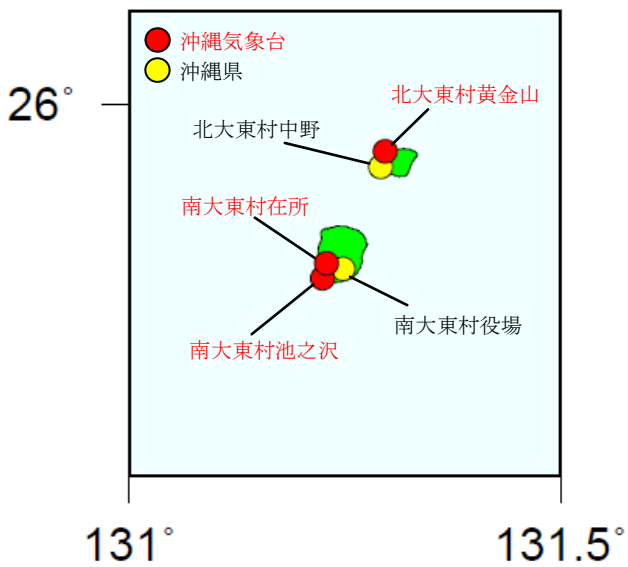
今期間最大規模の地震は、14日11時45分に南大東島近海で発生した地震（M4.3、図中a）でした。

※ 資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国家間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方の震度観測点



本件に関するお問い合わせ先

(南大東島地方気象台)

電話 09802-2-2006

<http://www.jma-net.go.jp/daitou/>

わかるかね～？ 沖縄の津波被害

私たちが暮らしている沖縄地方は、過去に津波の被害を受けています。1771年（明和8年）4月24日に発生した八重山地震により「明和の大津波」が起こり、約1万2千人が犠牲となりました*。

海外で発生した地震による津波でも被害を受けています。1960年（昭和35年）5月23日に南米チリ中部沿岸のマグニチュード9.5の地震によって発生した津波は、約1日かけて日本に到達しました。この津波により、死者・行方不明者142人（このうち沖縄県内では死者3人、負傷者2人）、住宅の全壊や橋の損壊など大きな被害がありました*。

* 「日本被害地震総覧」より

このような過去の歴史から、沖縄地方でも津波による被害が起きていることが分かります。

津波警報を見聞きしたり、強い揺れや長くゆっくりとした揺れを感じた場合は、津波から身を守るためにただちに高台や津波避難ビルなどの安全な場所へ避難しましょう。

普段から避難場所、避難経路を確認しておくことが大切です。右のような標識を参考にして近くの避難場所を確認しましょう。また、この標識は全国で統一されているので、緊急時に土地勘のない場所においても安全な場所に避難・誘導の助けになります。



津波注意
(津波危険地帯)



津波避難場所



津波避難ビル

消防庁「防災のための図記号に関する調査検討委員会」資料より

沖縄県では、海拔表示を右のように統一しています。赤、黄、青の色分けにより、津波による浸水の危険度を示しています。電柱や公共施設に設置されていますので、自分の居住地域や学校、職場の海拔を確認しておきましょう。



5m以下



6m～19m



20m以上

沖縄県 「海拔表示等にかかるガイドライン」より



地震・津波に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで
<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

